

# 令和7年度「地域学校協働本部事業」 地域学校協働活動の取組事例

## 「地域学校協働活動事業の成果」（福島県喜多方市）

### 取組の概要や経緯

授業や課外活動に専門性を有した地域の支援員を派遣することにより、学力向上や技術の習得、並びに教員の負担軽減を目指している。また、地域住民との積極的な交流を通じて、安心して学習に取り組める環境の構築や地域全体の教育力の向上に繋げるねらいがある。



(中村彼岸獅子体験)

彼岸の時期に笛や太鼓に合わせて舞いを披露し、豊作や家内安全を祈る伝統芸能を体験



(いじめ防止講話)

大学教授を講師に招き、いじめの定義や事例に触れながら、根拠に向けた講話を実施

### 内容

#### 【学習支援事業】

市内の小中学校に協働活動支援員を派遣し、専門性が求められる授業の補助や学習支援等を行っている。また、ふるさとや地域についての理解を深め、その成果を発表する活動の支援を行っている。

◎協働活動支援員・・・地域と学校の連携を促進し、児童生徒の多様な学びや成長を支えるための活動を行う

- (支援内容) ① 「ミシン」、「裁縫」、「書写」、「合奏」、「作品制作」、「ダンス」、「演劇」等の支援(授業補助)  
② 放課後や課外活動等における学習指導  
③ 道徳や学年集会等での講話  
④ 中村彼岸獅子等の伝統芸能やだんごさし等の伝統行事の継承



(だんごさし体験)

五穀豊穡や家内安全等を願い、小正月に色鮮やかなだんごを飾る伝統行事を体験

### ポイント

- ・年々派遣する支援員数や実施事業数を拡大している。また、前年度と同様の支援員を派遣することにより、児童生徒や教職員等との関係性を深め、指導の改善や活動の充実へと繋げている。
- ・地域の歴史や文化等に精通した支援員を派遣することにより、伝統芸能や伝統行事の継承を図り、児童生徒の郷土愛の醸成等に役立っている。

### 今後の方向性

- ①地域人材の発掘や人材バンクの整備に力を入れるとともに、事業並びに支援員に関する情報発信や情報共有に力を入れ、地域の人的・物的資源を有効活用する。
- ②学校の方針や地域の要請等を考慮しつつ、打ち合わせや準備の簡略化並びに効率化を図り、持続可能な体制の構築を目指す。
- ③地域学校協働活動推進員の配置の在り方について検討するとともに、学校教育課やコミュニティ・スクールとの連携を強化し、全小中学校を対象とした教育活動の更なる充実を目指す。

### 成果

- ◆今年度の実績：「合奏」、「いじめ防止講話」、「だんごさし」、「SDGs学習」、「ものづくり」等の指導
- ◆今後の予定：「剣道」、「篆刻」、「中村彼岸獅子」等の指導

#### 【令和7年度の成果】

##### ○協働活動支援員派遣実績(1月現在)

→派遣校：市内**10校**に計**35人**の支援員を派遣(派遣数合計71回、従事時間合計134時間)

##### ○地域連携担当教職員対象アンケート(23校23人)

- ① 地域人材を活用することで、教育活動の充実につながっていると感じる。  
→とてもあてはまる、まあまああてはまるに回答：**100%**
- ② 学校と地域の連携が深まり、社会に開かれた教育課程の実現につながっている。  
→とてもあてはまる、まあまああてはまるに回答：**96%**